

令和5年11月15日
農林水産部

報道機関各位

令和5年度山形県農業賞・林業賞・水産業賞受賞者の決定
及び表彰式の開催について

このことについて、下記のとおり受賞者を決定し、表彰式を開催しますので、取材くださるようお願いします。

なお、各賞の概要及び各受賞者の概要等については、別添のとおりです。

記

1 本年度の受賞者

(1) 大高根農場記念山形県農業賞（3名、2団体）

島貫 清孝 氏・百合子 氏 （米沢市）
石川 敏行 氏 （酒田市）
森屋 要二 氏 （庄内町）
株式会社高橋フルーツランド （上山市）
行沢とちの実会 （鶴岡市）

(2) 川村造林記念山形県林業賞（1名）

上林 幹夫 氏 （鶴岡市）

(3) 山形県水産業賞（1名、1団体）

佐藤 勝則 氏 （鶴岡市）
鮭川村サーモンロードの会 （鮭川村）

2 表彰式

日時 令和5年11月21日(火) 午後1時30分から
場所 ホテルメトロポリタン山形 「朝日」
(山形市香澄町一丁目1番1号)

【問い合わせ先】

農林水産部農政企画課
課長補佐 高橋 彩乃 TEL023-630-3659

[報道監]

農林水産部次長 齋藤 邦仁

山形県農業賞・林業賞・水産業賞について

おおたかね

大高根農場記念山形県農業賞

山形県自治講習所に大正9年に設置された「大高根農場」周辺農地が、昭和34年に自衛隊用地として国に譲渡された土地代金の一部を基金とし、本県農業の振興発展に寄与した者を表彰したのが始まり。昭和55年からは、県の表彰規則に基づく県知事表彰として表彰している。

本県農業の振興発展に尽した功績が顕著で、かつ、他の模範とされる農業者、農業団体等を表彰し、もって本県農業の振興発展に寄与することを目的とする。

(昭和34年以降、令和4年までの受賞者は、191個人、22団体)

かわむらぞうりん

川村造林記念山形県林業賞

本県の第23代知事川村貞四郎氏から県に寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興発展に貢献した個人、又は団体を表彰するため、昭和39年に創設された。

本県の林業・木材産業及び山村の振興において、積極的かつ計画的な活動等により、他の模範となる功績のあった個人又は団体を表彰し、もって本県民有林林業の振興に寄与することを目的とする。

(昭和40年以降、令和4年までの受賞者は、66個人、49団体)

山形県水産業賞

長年にわたり水産業に精励し、経営改善や水産物の付加価値向上、技術開発等に功績があった個人や団体、水産業関係団体の指導的立場にあり、他の水産業者の模範となる功績があった個人や団体を表彰するものとして、昭和54年に創設された。

本県水産業の発展について顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって本県水産業の振興に寄与することを目的とする。

(昭和54年以降、令和4年までの受賞者は、46個人、8団体)

令和5年度 受賞者の概要（敬称略）

※年齢は、表彰式（令和5年11月21日）時点の年齢

大高根農場記念山形県農業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	しまぬき せいこう 島貫 清孝 しまぬき ゆりこ 島貫 百合子	71 69	米沢市	<p>昭和48年～現在（清孝氏） 平成元年～現在（百合子氏） 農業（水稲、野菜等）に従事</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成9年に県内で初めてトマトの周年出荷を実現。視察受入れや相談対応など、県内周年施設栽培の推進に大きく寄与している。 清孝氏は、平成18年から水稲の有機栽培に取り組む。また、独自の除草技術を確立し、若手生産者に伝授するなど、技術継承や人材育成に尽力している。有機栽培の「つや姫」は、最高金賞を受賞するなど対外的な評価を得ており、ブランド化の一助となっている。 百合子氏は、平成30年4月にオープンした「道の駅 米沢」の農産物直売出荷協議会理事（令和4年度まで）として、直売所の運営に携わるなど、地域農産物の消費拡大に尽力している。
2	いしかわ としゆき 石川 敏行	70	酒田市	<p>昭和46年～現在 農業（水稲等）に従事 平成16年～平成25年 山形県指導農業士</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成14年に地域の生産者30名で「平田げんげんの会」を立ち上げ、農薬や化学肥料を減らした環境負荷の少ない米づくりを実践。国の基準より厳しい農薬6割減で特別栽培米の生産を実施し、地域における環境保全型農業の推進に大きく貢献している。 首都圏スーパーでの販売を実現し、販促活動の継続による「平田げんげんの会」会員の営農基盤の確立に大きく寄与している。

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
3	もりや ようじ 森屋 要二	68	庄内町	<p>昭和 48 年～平成 19 年 農業に従事</p> <p>平成 10 年～平成 19 年 余目町農業協同組合理事</p> <p>平成 19 年～令和 4 年 余目町農業協同組合代表理事組合長</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表理事組合長として農協独自の GIS システム構築をリードし、農地集積、スムーズな大豆団地の形成を可能としたことで、農家所得を上げることに貢献した。 「人・農地プラン」策定時に農協が主体となって地域の話し合いを進め、管内で1つの「JAあまるめプラン」として取りまとめるなど、地域農業をけん引した。 農協の餅加工品の個包装製造拡大に取り組み、販路を関東方面に拡大。生産者の手取り価格が向上し、農家の所得増大に貢献した。
4	かぶしきがいしゃ 株式会社 たかはし 高橋フルーツラ ンド	—	上山市	<p>昭和 58 年創業 観光果樹園・農家カフェ（上山市内 2 店舗、山形市内 1 店舗）を経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和 58 年に果樹と水稻の複合経営から果樹専作の観光果樹園経営に転換。自家製肥料やたい肥の散布など土づくりに力を入れている。 平成 24 年に観光果樹園の売店を「Hatake Café」としてリニューアルオープン。JR 山形駅や上山市内直売所にサテライトショップを展開し、気軽に山形の果物を食べる機会を提供するとともに、情報発信にも積極的に取り組み、県産果物の認知度向上に貢献している。多店舗展開のカフェ運営は、地元の雇用創出にも寄与している。

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
5	なめざわ みかい 行沢とちの実会	一	鶴岡市	<p>昭和 56 年 4 月、生活改善実行グループ「行沢とちの実会」を設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 40 年間の加工活動の中で、とちの実のアク抜き加工技術を確立し、伝統の味「とちもち」を地域の代表的特産品に育て上げた。昭和 63 年に加工施設を整備し、「とちもち」づくりを本格稼働させ加工販売している。 ・「行沢とちの実会」の活動は、農業の 6 次産業化の先駆けであり、また、女性起業の地域資源を活用した特産品づくりの事例として、地域内外の女性農業者の活躍促進に大きく貢献した。

川村造林記念山形県林業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	かんばやし みきお 上林 幹夫	85	鶴岡市	<p>昭和 31 年～現在 林業に従事</p> <p>昭和 63 年～平成 9 年 旧立川町森林組合理事</p> <p>平成 9 年～平成 28 年 出羽庄内森林組合理事</p> <p>平成 22 年～平成 28 年 出羽庄内森林組合副組合長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 9 年に行われた森林組合の広域合併に際して、旧立川町森林組合の役員として合併協議を精力的に進めた。合併後も出羽庄内森林組合の理事及び副組合長として組合経営をけん引した。また、組合員が所有する森林において集約化施業に本格的に取り組み、組合事業の拡大と地域林業の振興に貢献した。 ・自ら保有する山林（約 18ha）において、長伐期大径材生産を目標とした積極的な林業経営が評価され、平成 14 年度に山形県林業士に認定された。長年にわたり地域の森林所有者を対象に選木・間伐・枝打ちなどの技術指導に尽力している。

山形県水産業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	さとう かつのり 佐藤 勝則	65	鶴岡市	<p>平成4年～平成11年 鼠ヶ関漁業青年会会長</p> <p>平成22年～平成28年 山形県漁業士会会長</p> <p>令和4年～現在 念珠関漁港整備協力会会長、山形県漁港漁場協会理事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在では標準的な設備となっている冷水機や海水殺菌装置について熱心な普及活動を行い、水産物の品質や安全性の向上に大きく寄与した。 ・ 平成4年に鼠ヶ関漁業青年会の会長に就任すると同時に「鼠ヶ関大漁旗フェスティバル」の2代目会長として7年に渡りイベントの実施体制の整備に努め、約1万人が来場する一大イベントに育て上げた。 ・ また、令和4年から念珠関漁港整備協力会の会長及び山形県漁港漁場協会の理事に就任し、漁港の維持管理や整備に関する地元のまとめ役を行っている。
2	さけがわむら 鮭川村サーモン かい ロードの会	—	鮭川村	<p>平成11年11月1日設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川鮭の有効活用と、地域の食文化である「鮭の新切り（ようのじんぎり）」の継承を図るため、平成11年に発足し、水産振興と地域振興に貢献している。 ・ 地域の子どもを対象に、毎年11月下旬に「鮭の新切り作り体験」と、2月上旬に鍋やマリネなど「鮭の新切り」を使った調理体験教室を開催してきた。こうした活動は、対象者を村内外の親子に広げ地域振興に貢献している。 ・ 鮭のふ化放流事業を通して鮭の生態について学び、命の循環や大切さを子供へ教えており、地元の子どもたちのほか、交流都市の小学生との放流活動などを通じた交流事業も実施し、郷土愛の醸成と地域の魅力発信に尽力している。